

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ  
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

分娩前の貧血が分娩後の回復の質に及ぼす影響  
単施設後ろ向き研究

1. 対象となる患者さん

2024年6月10日～2025年8月31日の間に当院で帝王切開術または硬膜外麻酔による分娩時鎮痛を受けた妊娠32週以降・18歳以上の患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学 麻酔科学 川瀬 小百合

3. 研究の目的と意義

妊娠中は半数近くの患者さんに貧血がみとめられます。妊娠中の貧血は胎児予後および母体予後に多方面で影響することが知られており、例えば早産や低出生体重児の出生率増加、帝王切開率の増加や分娩時出血量の増加と関連しています。

一般的な外科手術では術前貧血が術後合併症や回復の遅れに結びつくことがこれまでの研究で証明されています。しかし、妊娠中の患者さんで分娩前の貧血が分娩後の回復に与える影響については調査されていません。

分娩前の貧血は術中・分娩中の出血に対して母体の予備力を低下させ、回復過程における疲労感、活動性低下、さらには精神的健康に影響を及ぼす可能性があるため、分娩前の貧血と分娩後の回復の質を調査します。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、分娩前の貧血が分娩後の回復の質に影響を与えるかを調査します。

## 5. 使用する情報

患者さんから得る情報として、分娩前の状態（年齢、身長、体重、妊娠週数、飲酒習慣、喫煙の有無、結婚歴、経産回数、帝王切開歴、不妊治療の有無、胎児の数、帝王切開の理由、併存疾患（妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠前高血圧、妊娠前糖尿病、てんかん、精神疾患）、血液検査データ、貧血治療の有無）、分娩時の情報（分娩方法、出血量、輸血の有無）、分娩後の情報（回復の質の質問票：ObsQoR-11、血液検査データ、エジンバラ産後うつ質問票）を診療録、助産録より収集します。

## 6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

## 7. 外部機関への情報等の提供

外部機関への情報提供はありません

## 8. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2026年 12 月 31 日

## 9. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

## 10. お問い合わせ先

奈良県立医科大学 麻酔科学 川瀬 小百合

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：k159020@naramed-u.ac.jp